

国 どう どう すえ き かま あと
百々陶器窯跡—地図 J-4

窯業の研究が進んでいなかった指定当時は、奈良時代の窯跡とされていましたが、他と同様に中世の窯跡です。我が国の窯業史を考えるうえでも重要な史跡として有名です。台地の南斜面にトンネル状に構築された窯が、一部天井を遺して2基並んで残っています。甕、壺、鉢、山茶碗が焼かれていました。



市 にいのみ こはん
新美古墳—地図 I-4

汐川に面した台地上に造られた、横穴式石室を持つ、推定直径約20mの円墳です。発掘調査では須恵器、鉄製品、耳環が見つかっています。6世紀後半に築造された、渥美半島を代表する首長墳のひとつです。



そう さく こ ぶつ せき ぐん
惣作古窯跡群—地図 I-4

12~13世紀に築かれた、主に碗・皿類を焼いた21基の窯が確認されています。そのうち10号窯からは、ざれ歌が刻まれた碗が出土しました。碗の外面上には、植物と

「やもめなど なかもふ恵 こつびには
そつとあわせよ さで うるふやも」

「やらうかつびはうつつぞ にはかには
こつびはいかが うせなん うせなん」

と書かれており、男女の赤裸々な情愛が歌われ、全国的にも珍しいものです。



つばざわ こ ぶつ せき ぐん
坪沢古窯跡群—地図 I-3

かつて産地不明の幻の「黒い壺」と呼ばれた蓮弁文壺が焼かれたとして、渥美窯の名を全国に知らしめた窯跡です。渥美窯成立の時期から終末期まで続いた渥美半島最大の窯跡群です。うち5基が発掘され、大甕・長頸壺・短頸壺・広口壺・山茶碗など種類・量共に多くのものが出土しました。



むかいやま こ ぶん ぐん
上山古墳群—地図 G-4

芦ヶ池東南の小山には、山頂・山麓にかけて22基もの6世紀~7世紀の古墳が造営されています。そのうち15基が調査され、須恵器・大刀・刀子・鉄鎌・鉄斧・鉄鎌・馬具・玉類・耳環が出土しました。



あし じん じや
阿志神社—地図 G-3

延喜式式内社で『文徳実録』の仁寿元年(851)の記録に初めて登場します。その後、田原城主・三宅康勝が寛文10年(1670)これを再興し、現在の地に移しました。



おお こ ぶつ
大アラコ古窯跡—地図 G-4

平安時代末期、当時の三河国司・藤原顕長の銘入り壺が焼かれた窯跡。ここで焼かれた製品には、奥州平泉の藤原氏のもとまで運ばれたものもあります。渥美半島の窯業の繁栄を示す貴重な窯跡です。



だい にち にょうらい ざ そう
大日如来坐像—地図 H-5

12世紀の後半に製作されたもので、漁師の網にかかったと伝えられています。木造で一部が破損して江戸時代に修理が行われています。渥美半島の同時期の仏像の中で、都的な作風を示すものとして貴重です。12年に一度(申の年)の大祭に開帳されます。

